

北海道観光入込客数調査報告書

令和元年度（2019年度）

令和2年（2020年）8月

北海道経済部観光局

北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

1 北海道観光入込客数調査について

本調査は、観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に準じて平成22年度に道が改正した「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、観光入込客数などを推計したものです。

2 調査内容

(1) 観光入込客数（実人数）

市町村が行う観光地点等入込客数調査、道が行う観光地点パラメータ調査及び観光庁が提供する宿泊観光入込客数などのデータなどにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

訪日外国人来道者数（実人数）については、日本政府観光局（JNTO）の訪日外客数や訪日外客訪問地調査などにより推計した北海道を訪れた外国人の実人数

(2) 観光入込客数（延べ人数）

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

（1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。）

(3) 観光消費額単価

全道14カ所の観光地点における聞き取り調査をもとに、道内客、道外客、外国人について、「観光」、「ビジネス兼観光」別に算出した観光消費額単価

3 利用上の留意事項

各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

I 観光入込客数（実人数）

1 概況

春のゴールデンウィークの10連休の集客や夏の定番観光施設の集客は好調に推移したものの、10月に発生した台風19号の影響に加え、日韓における国際情勢の影響や新型コロナウイルス感染症の世界的流行による旅行需要の大幅な減少が響き、令和元年度（2019年度）の観光入込客数は全体で5,277万人（前年比▲4.4%）となりました。

2 道内容・道外客・外国人別

道内容は4,441万人（前年度比160万人減、▲3.5%）、道外客は592万人（同15万人減、▲2.5%）、外国人が244万人（同67万人減、▲21.6%）となりました。

3 日帰り客・宿泊客別

日帰り客は3,526万人（前年度比122万人減、▲3.3%）、宿泊客は1,751万人（同121万人減、▲6.5%）となりました。

4 四半期別

四半期別にみると、第1四半期が1,580万人（前年度比29万人増、+1.9%）、第2四半期が2,075万人（同59万人増、+2.9%）、第3四半期が870万人（同28万人減、▲3.1%）、第4四半期が753万人（同302万人減、▲28.7%）となりました。

＜令和元年度（2019年度）観光入込客数（実人数）＞

区分	日帰り客	宿泊客	計	前年度比	構成比	
第1四半期 (4~6月)	道内客	1,116万人	244万人	1,360万人	+1.1%	86.1%
	道外客	2万人	153万人	155万人	+7.6%	9.8%
	外国人	—	65万人	65万人	+4.4%	4.1%
	合計	1,118万人	462万人	1,580万人	+1.9%	100.0%
第2四半期 (7~9月)	道内客	1,523万人	272万人	1,795万人	+2.7%	86.5%
	道外客	9万人	203万人	212万人	+8.7%	10.2%
	外国人	—	68万人	68万人	▲7.4%	3.3%
	合計	1,532万人	543万人	2,075万人	+2.9%	100.0%
第3四半期 (10~12月)	道内客	439万人	232万人	671万人	▲3.6%	77.2%
	道外客	6万人	134万人	140万人	+3.7%	16.1%
	外国人	—	59万人	59万人	▲12.4%	6.7%
	合計	445万人	425万人	870万人	▲3.1%	100.0%
第4四半期 (1~3月)	道内客	429万人	186万人	615万人	▲24.4%	81.7%
	道外客	2万人	83万人	85万人	▲36.1%	11.3%
	外国人	—	53万人	53万人	▲51.7%	7.0%
	合計	431万人	322万人	753万人	▲28.7%	100.0%
合計	道内客	3,507万人	934万人	4,441万人	▲3.5%	84.2%
	道外客	19万人	573万人	592万人	▲2.5%	11.2%
	外国人	—	244万人	244万人	▲21.6%	4.6%
	合計	3,526万人	1,751万人	5,277万人	▲4.4%	100.0%

5 訪日外国人来道者数（実人数）

(1) 概況

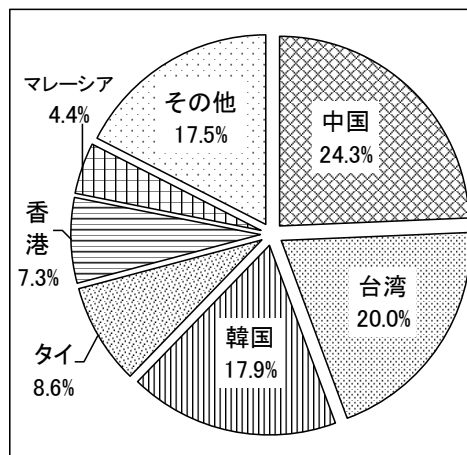
令和元年度の訪日外国人来道者数は、倶知安町でのG20観光大臣会合の開催、ラグビーワールドカップの開催効果などがあったものの、日韓における国際情勢の影響や新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大に伴い、第4四半期で大きく減少し、244万人と前年度に比べて21.6%大きく減少しました。

これは日本全体の令和元年度訪日外国人旅行者数2,777万人の8.8%となっています。

(2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は213万6,600人で、前年度に比べて20.5%の減少となりました。

国・地域別で見ると、中国が59万4,000人（前年度比▲16.2%）と最も多く、次いで、台湾が48万8,900人（同▲17.7%）、韓国が43万6,900人（同▲40.2%）、タイが21万600人（同▲10.5%）、香港が17万7,800人（同▲13.3%）、マレーシアが10万6,900人（同▲17.1%）となっており、新型コロナウイルス感染症の影響等により、多くの国で減少となりました。



来道者数の多い主要な国・地域別の特徴は次のとおりです。

中国	昨年1月から個人査証の発給要件が緩和されたことなどから大幅に増加しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により1月末から中国での団体旅行の販売が禁止されたほか、3月からは日本の検疫強化、査証の無効化により前年度比16.2%減となりました。
韓国	第1四半期は北海道人気の高まりが継続したことにより前年同期比16%増となりましたが、8月以降は日韓の国際情勢の変化の影響を受け、訪日旅行を控える動きが発生したことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により前年度比40.2%減となりました。
台湾	一部航空会社のストライキの影響などによる減少に加え、2月以降は新型コロナウイルス感染症の影響により段階的に日本への渡航警戒レベルが引き上げられたため、訪日旅行を控える動きが加速し、前年度比17.7%減となりました。
香港	第3四半期まで減少傾向であり、2月以降は、新型コロナウイルス感染症の流行により、訪日旅行を控える動きが生じたため大幅に減少し、前年度比13.3%減となりました。
タイ	紅葉や雪への憧れが強いことに加え、食への根強い人気が続き、第3四半期は前年同期比32.2%増と好調が続いていましたが、2月以降は新型コロナウイルス感染症の影響により減少したため、前年度比10.5%減となりました。
マレーシア	クアラルンプールー成田線の新規就航や年末のチャーター便の就航により第3四半期以降持ち直しが続いていましたが、2月以降は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、海外団体旅行を手控える動きが出たため、大幅に減少し、前年度比17.1%減となりました。

<令和元年度(2019年度)訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人)

区 分		韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン
第1四半期 (4~6月)	元年度	200,200	136,800	118,700	35,200	44,300	13,200	24,300	7,200	4,500
	30年度	172,500	144,200	122,000	39,400	48,400	12,800	31,700	7,400	3,000
	前年同期比	+16.1%	▲5.1%	▲2.7%	▲10.7%	▲8.5%	+3.1%	▲23.3%	▲2.7%	+50.0%
第2四半期 (7~9月)	元年度	161,200	150,200	136,600	51,600	48,800	18,700	28,000	1,300	6,800
	30年度	200,400	127,400	167,700	53,300	61,800	23,100	36,200	3,800	2,900
	前年同期比	▲19.6%	+17.9%	▲18.5%	▲3.2%	▲21.0%	▲19.0%	▲22.7%	▲65.8%	+134.5%
第3四半期 (10~12月)	元年度	38,700	145,400	134,000	51,800	69,400	32,600	36,600	4,300	8,700
	30年度	132,300	136,800	144,100	57,300	52,500	29,200	35,200	13,200	9,400
	前年同期比	▲70.7%	+6.3%	▲7.0%	▲9.6%	+32.2%	+11.6%	+4.0%	▲67.4%	▲7.4%
第4四半期 (1~3月)	元年度	36,800	161,600	99,600	39,200	48,100	7,100	18,000	8,400	8,700
	30年度	226,000	300,500	160,400	55,000	72,500	18,700	25,800	8,200	12,000
	前年同期比	▲83.7%	▲46.2%	▲37.9%	▲28.7%	▲33.7%	▲62.0%	▲30.2%	+2.4%	▲27.5%
合 計	元年度	436,900	594,000	488,900	177,800	210,600	71,600	106,900	21,200	28,700
	30年度	731,200	708,900	594,200	205,000	235,200	83,800	128,900	32,600	27,300
	前年同期比	▲40.2%	▲16.2%	▲17.7%	▲13.3%	▲10.5%	▲14.6%	▲17.1%	▲35.0%	+5.1%

区 分		イギリス	フランス	ドイツ	豪州	米国	カナダ	ロシア	その他	合計
第1四半期 (4~6月)	元年度	3,700	3,500	4,200	5,600	21,300	5,900	1,700	17,800	648,100
	30年度	1,700	700	700	7,600	9,600	3,000	3,700	12,400	620,800
	前年同期比	+117.6%	+400.0%	+500.0%	▲26.3%	+121.9%	+96.7%	▲54.1%	+43.5%	+4.4%
第2四半期 (7~9月)	元年度	5,400	3,900	2,100	6,700	28,600	3,600	1,500	25,600	680,600
	30年度	2,900	1,900	1,500	7,400	17,400	6,200	4,100	17,100	735,100
	前年同期比	+86.2%	+105.3%	+40.0%	▲9.5%	+64.4%	▲41.9%	▲63.4%	+49.7%	▲7.4%
第3四半期 (10~12月)	元年度	4,200	2,800	2,800	9,200	24,400	4,700	1,700	15,000	586,300
	30年度	1,100	3,000	2,800	8,400	18,100	5,500	3,100	17,000	669,000
	前年同期比	+281.8%	▲6.7%	±0.0%	+9.5%	+34.8%	▲14.5%	▲45.2%	▲11.8%	▲12.4%
第4四半期 (1~3月)	元年度	3,600	1,800	1,300	33,100	29,800	4,400	3,100	22,400	527,000
	30年度	24,500	5,000	5,100	45,000	58,300	6,000	7,000	60,100	1,090,100
	前年同期比	▲85.3%	▲64.0%	▲74.5%	▲26.4%	▲48.9%	▲26.7%	▲55.7%	▲62.7%	▲51.7%
合 計	元年度	16,900	12,000	10,400	54,600	104,100	18,600	8,000	80,800	2,442,000
	30年度	30,200	10,600	10,100	68,400	103,400	20,700	17,900	106,600	3,115,000
	前年同期比	▲44.0%	+13.2%	+3.0%	▲20.2%	+0.7%	▲10.1%	▲55.3%	▲24.2%	▲21.6%

Ⅱ 観光入込客数（延べ人数）

1 総数

市町村における観光入込客数を合計した総数（延べ人数）は、1億4,388万人で、前年度に比べて1.4%の減少となりました。

また、宿泊客延べ数の合計は、3,620万人泊で、前年度に比べて4.2%の減少となりました。

2 圏域別

圏域別の観光入込客数（延べ人数）を見ると、上期（4月～9月）は、10連休などの日並びや天候に恵まれたとに加え、ラグビーワールドカップの開催等があったことから、全ての圏域で増加傾向であり、下期（10月～3月）に関しても倶知安町におけるG20観光大臣会合などの開催などの増加要因はありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向となり、道南と釧路・根室地域以外は減少に転じました。

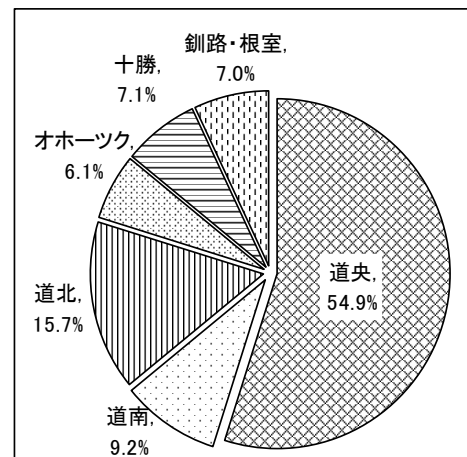
宿泊客延べ数は全ての地域で前年度に比べ減少しました。

なお、各圏域の観光入込客数の特徴は次のとおりです。

道 央 圏	「道の駅あびらD51ステーション」のオープン、高速道路後志道余市 IC の開通による観光客の増加はあったものの、日韓関係の悪化による韓国からの観光客が減少、少雪によるスキー客の減少もあり、減少となりました。
道 南 圏	函館市へのクルーズ船の寄港回数の増加や「道の駅上ノ国もんじゅ」等の観光施設への訪問客が増加したものの、エバー航空のストライキによる台湾との直行便の運休、韓国、香港の社会情勢の変化により道外客が減少し、微増となりました。
道 北 圏	「青い池」などの定番観光施設の人気が続いた他、「道の駅北オホーツクはまとんべつ」のオープンにより日帰り客を中心に増加したものの、冬期の雪不足によりスキー客やスノーアクティビティ客が減少し、微減となりました。
オホーツク圏	旭川紋別自動車道の延伸に伴う交通アクセスの向上、「道の駅遠軽 森のオホーツク」のオープンもあり、観光客の増加はあったものの少雪によるイベントの中止や流水観光時期の新型コロナウイルス感染症の拡大が影響し、微減となりました。
十 勝 圏	人気ドラマ「なつぞら」のロケ地訪問による観光客の増加があったものの、大型宿泊施設の休業、池田ワイン城の施設改修工事もあり、微減となりました。
釧路・根室圏	天候不順による一部イベントの中止等あったものの、釧路外環状道路の開通に伴う交通アクセスの向上、「野付半島」の観光客の増加、「くしろ湿原ノロッコ号」、「SL冬の湿原号」の各種記念イベントの実施により、増加となりました。

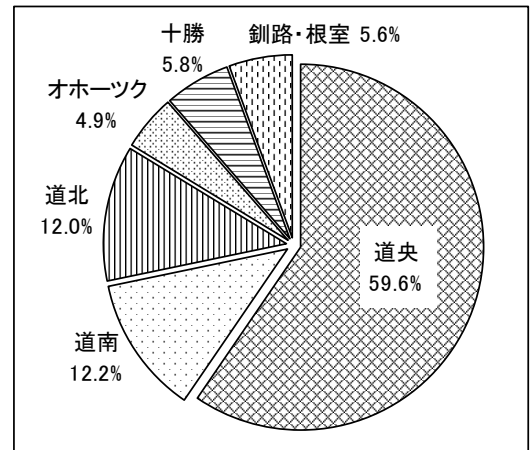
<圏域別観光入込客数(延べ人数)>

圏 域	観光入込客数	前年度比	増減数	構成比
道 央	7,894万人	▲2.3%	▲189万人	54.9%
道 南	1,322万人	+0.2%	+2万人	9.2%
道 北	2,259万人	▲1.2%	▲27万人	15.7%
オホーツク	875万人	▲1.1%	▲10万人	6.1%
十 勝	1,026万人	▲0.6%	▲6万人	7.1%
釧路・根室	1,011万人	+3.0%	+29万人	7.0%
合 計	14,388万人	▲1.4%	▲200万人	100.0%



〈圏域別宿泊客延べ数〉

圏域	宿泊客延数	前年度比	増減数	構成比
道央	2,157万人泊	▲1.8%	▲39万人泊	59.6%
道南	440万人泊	▲12.2%	▲61万人泊	12.2%
道北	434万人泊	▲9.5%	▲46万人泊	12.0%
オホーツク	176万人泊	▲2.6%	▲5万人泊	4.9%
十勝	210万人泊	▲3.9%	▲9万人泊	5.8%
釧路・根室	203万人泊	▲1.0%	▲2万人泊	5.6%
全道	3,620万人泊	▲4.2%	▲161万人泊	100.0%



3 市町村別

観光入込客数を市町村別で見ると、札幌市が1,526万人（前年度比▲3.7%）で最も多く、次いで、小樽市699万人（同▲10.5%）、函館市537万人（同+2.0%）、以下釧路市、旭川市、千歳市の順となっています。

一方、宿泊客延べ数で見ると、札幌市が1,398万人泊（前年度比+1.8%）で最も多く、次いで、函館市382万人泊（同▲13.3%）、釧路市148万人泊（同▲3.5%）、以下、帯広市、倶知安町、登別市の順となっています。

〈観光入込客数(実人数)の多い市町村〉

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,526万人	▲3.7%
2	小樽市	699万人	▲10.5%
3	函館市	537万人	+2.0%
4	釧路市	531万人	+0.1%
5	旭川市	508万人	▲3.6%
6	千歳市	454万人	▲8.7%
7	登別市	324万人	▲14.5%
8	帯広市	282万人	▲3.7%
9	喜茂別町	244万人	▲0.3%
10	美瑛町	242万人	+7.0%
11	洞爺湖町	240万人	▲7.3%
12	七飯町	226万人	▲3.0%
13	苫小牧市	223万人	+11.5%
14	石狩市	219万人	▲13.5%
15	富良野市	189万人	▲1.5%
16	壮瞥町	178万人	▲11.1%
17	二セコ町	175万人	+5.1%
18	伊達市	163万人	▲5.6%
19	砂川市	163万人	+0.2%
20	白老町	160万人	+6.1%

〈宿泊客延べ数の多い市町村〉

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	1,398万人泊	+1.8%
2	函館市	382万人泊	▲13.3%
3	釧路市	148万人泊	▲3.5%
4	帯広市	119万人泊	▲6.3%
5	倶知安町	114万人泊	▲10.5%
6	登別市	107万人泊	▲14.6%
7	小樽市	94万人泊	▲0.5%
8	旭川市	91万人泊	▲16.4%
9	洞爺湖町	65万人泊	▲10.7%
10	北見市	64万人泊	▲8.2%
11	富良野市	63万人泊	▲5.4%
12	占冠村	60万人泊	▲9.9%
13	上川町	52万人泊	▲11.9%
14	二セコ町	47万人泊	▲6.8%
15	斜里町	44万人泊	+1.2%
16	網走市	42万人泊	▲4.7%
17	音更町	42万人泊	▲5.8%
18	稚内市	37万人泊	▲0.3%
19	千歳市	35万人泊	▲0.6%
20	留寿都村	34万人泊	▲10.9%

4 訪日外国人来道者の宿泊延べ数

(1) 国・地域別

令和元年度（2019年度）の訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、753万6千人泊で、前年度に比べて10.8%の減少となりました。

国・地域別に見ると、中国が200万2千人泊で全体の26.6%を占め最も多く、次いで、台湾が154万7千人泊で20.5%、韓国が79万4千人泊で10.5%、香港が66万5千人泊で8.8%、タイが51万9千人泊で6.9%、以下、シンガポール、オーストラリアなどの順となっています。

(2) 圏域別

圏域別に見ると、道央圏が548万人泊と全道の72.7%と最も多く、次いで道北圏、道南圏、釧路・根室圏、十勝圏、オホーツク圏の順となっています。

〈圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数〉

(単位:人泊)

圏域	ア ジ ア										
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インド	インドネシア	フィリピン	ベトナム
道央	1,498,416	693,686	933,168	464,795	271,612	197,508	387,014	6,706	83,358	72,696	11,005
道南	179,303	16,898	246,316	23,000	27,353	19,662	50,818	924	13,638	5,063	28,889
道北	238,959	58,693	226,028	112,898	68,708	22,689	72,049	801	10,792	2,984	886
オホーツク	21,676	5,408	26,182	23,716	12,514	4,471	2,838	122	819	321	312
十勝	22,558	11,912	54,638	23,401	17,561	5,710	3,704	77	750	87	99
釧路・根室	41,202	7,184	60,433	17,121	11,326	4,477	2,533	102	663	362	545
全道	2,002,114	793,781	1,546,765	664,931	409,074	254,517	518,956	8,732	110,020	81,513	41,736
前年度比	▲2.1%	▲41.7%	▲11.6%	▲12.5%	▲1.4%	▲14.8%	▲8.9%	▲13.8%	▲2.7%	+21.2%	+193.3%
構成比	26.6%	10.5%	20.5%	8.8%	5.4%	3.4%	6.9%	0.1%	1.5%	1.1%	0.6%

圏域	ヨーロッパ				北 米		オーストラリア	その他	計	30年度	前年度比
	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	アメリカ	カナダ					
道央	20,105	50,461	17,181	17,832	180,833	29,308	203,952	340,056	5,479,692	6,112,705	▲10.4%
道南	2,732	4,829	2,892	2,774	17,521	5,047	10,989	15,799	674,447	783,678	▲13.9%
道北	1,060	4,700	4,675	2,425	19,504	3,632	47,412	24,316	923,211	1,034,989	▲10.8%
オホーツク	168	926	1,517	1,240	4,659	465	2,350	10,292	119,996	127,992	▲6.2%
十勝	325	723	949	389	3,182	324	11,844	4,471	162,704	185,717	▲12.4%
釧路・根室	794	2,139	2,050	1,091	6,088	561	2,145	15,190	176,006	198,689	▲11.4%
全道	25,184	63,778	29,264	25,751	231,787	39,337	278,692	410,124	7,536,056	8,443,770	▲10.8%
前年度比	▲0.4%	+47.3%	+24.5%	+41.6%	+6.3%	+13.7%	▲2.2%	+5.1%	▲10.8%		
構成比	0.3%	0.8%	0.4%	0.3%	3.1%	0.5%	3.7%	5.4%	100.0%		

(3) 市町村別

市町村別に見ると、札幌市が337万人泊（前年度比▲6.5%）で最も多く、次いで函館市が59万4千人泊（同▲14.0%）、登別市39万2千人泊（同▲19.3%）、倶知安町39万2千人泊（同▲15.8%）、洞爺湖町27万2千人泊（同▲17.1%）となっています。

【宿泊延べ数の多い上位5カ国・地域】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	中国	2,002,114人泊	▲2.1%
2	台湾	1,546,765人泊	▲11.6%
3	韓国	793,781人泊	▲41.7%
4	香港	664,931人泊	▲12.5%
5	タイ	518,956人泊	▲8.9%

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	3,370,263人泊	▲6.5%
2	函館市	594,162人泊	▲14.0%
3	登別市	392,205人泊	▲19.3%
4	倶知安町	391,609人泊	▲15.8%
5	洞爺湖町	272,464人泊	▲17.1%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	952,774人泊	+6.3%
2	函館市	153,539人泊	▲3.7%
3	登別市	119,577人泊	▲9.8%
4	占冠村	116,436人泊	▲15.7%
5	洞爺湖町	88,617人泊	▲4.5%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	499,036人泊	▲39.5%
2	登別市	52,277人泊	▲53.2%
3	小樽市	33,069人泊	▲50.2%
4	留寿都村	21,426人泊	▲33.8%
5	上川町	20,742人泊	▲43.3%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	583,241人泊	▲1.8%
2	函館市	214,073人泊	▲23.5%
3	登別市	108,668人泊	▲16.6%
4	上川町	83,471人泊	▲16.6%
5	洞爺湖町	76,264人泊	▲24.2%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	252,670人泊	▲10.1%
2	倶知安町	65,522人泊	▲16.0%
3	小樽市	39,610人泊	▲3.4%
4	登別市	33,232人泊	▲10.4%
5	占冠村	30,781人泊	▲15.4%

【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	148,207人泊	+6.2%
2	倶知安町	43,028人泊	▲15.4%
3	函館市	24,803人泊	▲22.5%
4	占冠村	20,239人泊	▲3.2%
5	小樽市	18,401人泊	+10.2%

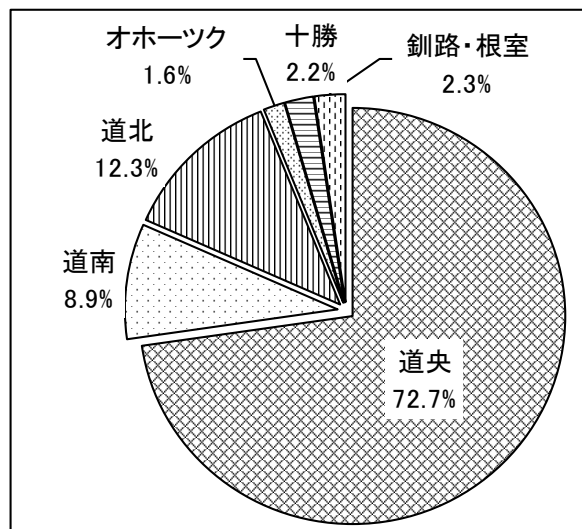
【タイの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	265,176人泊	▲4.3%
2	函館市	43,892人泊	▲29.3%
3	旭川市	42,634人泊	▲15.4%
4	小樽市	22,870人泊	▲2.1%
5	千歳市	20,187人泊	▲18.2%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	96,691人泊	▲16.8%
2	札幌市	59,898人泊	+35.0%
3	占冠村	25,083人泊	▲11.1%
4	富良野市	15,978人泊	+25.8%
5	留寿都村	11,883人泊	+5.3%

〈圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数〉



Ⅲ 観光消費額単価

道内14の観光地点において実施した聞き取り調査により算出した観光消費額単価は、下表のとおりとなっています。

＜令和元年度(2019年度) 観光消費額単価＞ (単位:円)

区 分		日帰り	宿 泊	
第1 四半期 (4~6月)	道 内 客	観光	6,763 (4,591)	24,663 (23,976)
		ビジネス兼観光	5,723 (6,308)	23,373 (21,569)
	道 外 客	観光	27,592 (13,132)	105,710 (80,104)
		ビジネス兼観光	6,096 (7,414)	77,967 (27,303)
	外 国 人	観光	8,013 (8,726)	152,929 (127,735)
		ビジネス兼観光	7,422 (10,635)	112,222 (204,698)
第2 四半期 (7~9月)	道 内 客	観光	4,268 (4,109)	23,046 (27,204)
		ビジネス兼観光	4,842 (6,892)	24,011 (22,984)
	道 外 客	観光	30,000 (24,950)	99,685 (87,133)
		ビジネス兼観光	6,568 (8,009)	36,678 (28,227)
	外 国 人	観光	7,711 (7,774)	152,292 (140,017)
		ビジネス兼観光	10,131 (10,420)	271,458 (139,342)
第3 四半期 (10~12月)	道 内 客	観光	5,277 (6,275)	20,220 (28,999)
		ビジネス兼観光	4,962 (8,154)	29,801 (23,334)
	道 外 客	観光	27,712 (14,833)	74,881 (78,513)
		ビジネス兼観光	6,652 (6,954)	68,862 (27,328)
	外 国 人	観光	8,308 (8,935)	147,067 (170,223)
		ビジネス兼観光	7,305 (9,223)	78,279 (91,674)
第4 四半期 (1~3月)	道 内 客	観光	5,278 (3,998)	28,895 (29,112)
		ビジネス兼観光	4,434 (5,723)	24,799 (18,781)
	道 外 客	観光	11,847 (36,102)	78,308 (65,864)
		ビジネス兼観光	6,650 (6,096)	126,326 (95,759)
	外 国 人	観光	5,853 (8,013)	148,972 (206,532)
		ビジネス兼観光	31,367 (7,422)	70,091 (161,519)

※ () 内の数値は、前年度の単価です。

道内客、道外客、外国人客の「ビジネス兼観光」及び外国人の日帰りの単価は、観光庁から提供された値を掲載しています。

北海道観光入込客数調査報告書 [令和元年度 (2019年度)]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>

令和2年(2020年)8月

北海道経済部観光局(観光企画)

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号(代表) 011-231-4111 内線 26-592

(直通) 011-206-6596

FAX番号(直通) 011-232-4120
